

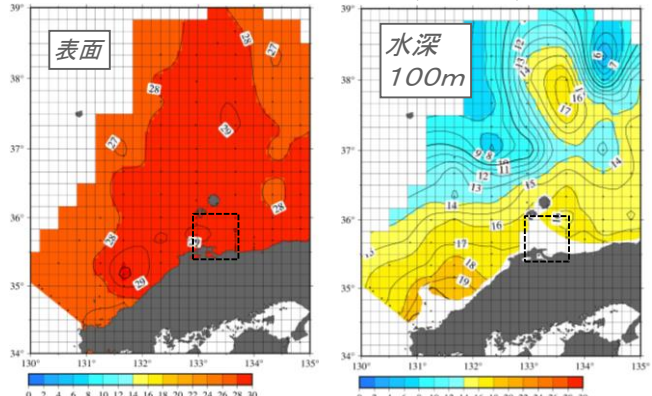
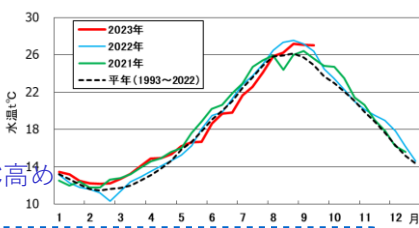


鳥取沿岸の水温

鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽

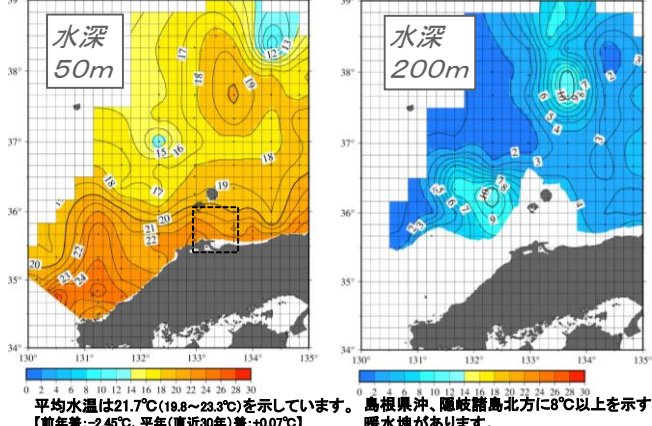
(電話:0858-34-3321)

9月中旬 27.2℃
2年より 2.1℃高い



随岐海峡と鳥取県沖(点線範囲内)の平均水温は28.8℃(28.8~29.4℃)を示しています。【前年差:+0.84℃、平年(直近30年)差:+2.25℃】

平均水温は16.2℃(15.8~16.9℃)を示しています。【前年差:-0.26℃、平年(直近30年)差:+0.04℃】

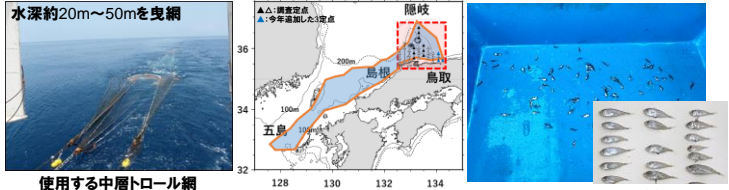


平均水温は21.7℃(19.8~23.3℃)を示しています。鳥取県沖、随岐諸島北方に8℃以上を示す暖水塊があります。【前年差:-2.45℃、平年(直近30年)差:+0.07℃】

水産試験場

マアジ加入量調査の結果について

2003年から水産試験場では、毎年5月～6月にかけて「マアジ新規加入量調査」を実施し、その年の秋以降におけるマアジの漁況予測を行っています。今年度は5月16日～6月14日に昨年より調査定点を3点追加し、試験船「第一鳥取丸」により実施しました。稚魚採集用の中層トロール網を曳網し、その年生まれのマアジ幼魚(体長4cm程度)の分布状況について山口県・鳥取県および(国研)水産研究・教育機構と連携して調査を実施しています。



使用中層トロール網 調査地点(赤枠:鳥取県担当海域) 採取されたマアジ幼魚

【調査結果】

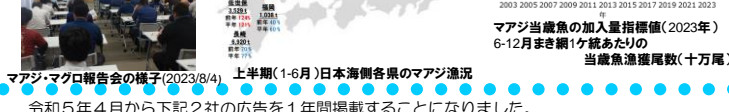
今年度の調査では、近年と比較し鳥取県沖での採集個体数が減少し、マアジ当歳魚の分布がやや西に偏るという特徴がみられました。

加入量指標値をみると、今年度の数値は「低加入」とまでは言えないものの直近3か年では最も低い数値となりました。

今後のマアジ漁況については、上半期の日本海中西部(長崎県、佐賀県など)、境港の水揚げが低調なこと、そして加入量指標値が近年では低い水準であることから秋以降の水揚げは前年を下回る事が予想されます。

本結果は8/4に開催したマアジ・マグロ報告会にて報告し、会議の場では「調査海域をさらに拡大するべきではないか」というご意見も頂きました。

今後もマアジ当歳魚の加入状況、秋以降の漁況予測をより正確に行っていくよう調査内容の改善に努めていきます。



マアジ当歳魚の加入量指標値(2023年) 6-12月まき網1ヶ所あたりの当歳魚漁獲尾数(十万尾)

マアジ・マグロ報告会の様子(2023/8/4) 上半期(1-6月)日本海側各県のマアジ漁況 令和5年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424
境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

8月下旬の水塊配置と対馬暖流

鳥取県冷水域 随岐諸島北方の冷水域	鳥取県東部沖N36°50'以北に冷水域(11℃以下)が認められます。
山陰・若狭沖の冷水域	鳥取県東部沖N37°50'以北に冷水域(11℃以下)が認められます。
その他、冷水・暖水域	冷水塊(13℃)が鳥取県東部沖N37°30'付近に認められます。 暖水域(15-17℃)が随岐諸島北方N37°20'付近に認められます。
対馬暖流の流路	主流は朝鮮半島東岸に沿って北方に向かい流れると考えられます。主流の一部は、鳥取県冷水域に沿って北方へ流れ、その後、山陰・若狭沖冷水域に沿ってN37°50'以北を流れていると考えられます。鳥取県東部N37°30'付近冷水塊周辺には反時計回りの流れが生じていると考えられます。

水産振興課・漁業調整課

2023年漁業センサス実施のお知らせ

今年、海面漁業を営む漁業経営体を対象に、2023年漁業センサスが実施されます。

「漁業センサス」は、我が国漁業の生産構造、就業構造を明らかにするとともに、漁村、水産物流通・加工業などの漁業をとりまく実態と変化を総合的に把握することを目的に5年ごとに行われる大規模な調査です。

10月頃から調査員が訪問し、漁船の操業状況などを調査します。漁業の現状を知り、水産行政の将来を考える大切な基礎資料となるため、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

<漁業センサス一般に関する問い合わせ先>
鳥取県総務部統計課経済統計担当
TEL:0857-26-7109
電子メール: toukei@pref.tottori.lg.jp

漁業センサス

栽培漁業センター

キジハタ(あこう)の種苗放流が行われました!

鳥取県では、平成28年から漁業者主体のキジハタの種苗放流が行われています。今年も右表のとおり、県内各地で合計2万尾の放流が行われました。

また、放流効果を明らかにするため、過去の放流魚の水揚げ状況を調査しています。腹鱗の片側が無い、もしくは短いキジハタは放流魚の可能性が高いので、発見された際は、栽培漁業センター(0858-34-3321)にご連絡下さい。今後も調査へのご協力をよろしくお願いいたします!

放流日	地区	場所	尾数
8月22日(火)	泊	禁漁区沖	500
	夏泊	サキノオヤ	400
8月23日(水)	網代	オジャーダ 駒山	3,200
	酒津	禁漁区沖	4,000
8月30日(水)	赤碓	西港西	5,000
	中山	逢坂港西	2,300
	御米屋	御米屋漁港西	2,300
淡江	淡江漁港北	2,300	
合計			20,000

今年見つけた腹鱗片側が短い放流魚(R5.7.20酒津)

ご協力いただいた皆さま
ありがとうございました!

潮に夢を

共和水産株式会社

代表取締役 橋津 寛

〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530